

2018 年度活動助成 活動実績報告書

団体名	京都橘大学救急救命研究会 TURF
活動テーマ	育てよう、未来のバイスタンダー



心停止に対する早急な手当てにより救命率や社会復帰率が改善することはすでに多くのデータで示され、BLS 普及の方策として、学校教育への導入は JRC 蘇生ガイドラインでも強く推奨されている。部員の出身である高校での BLS 普及活動を自ら企画・運営し、幼稚園・小学校などだけではなく幅広い年代層の学生を受講者の対象とした。また、学生に限定することなく幼稚園の教員やマンションの防災訓練に BLS 普及講習を盛り込むことで、災害時での対応が少しでも行いやすくなることも目的とした

保育施設での実施においては、受講対象が園児・教員どちらかであった。園児を対象とした場合には、胸骨圧迫の正しい方法や、詳細な知識にこだわることなく簡易蘇生マネキン（ミニアン）に多く触れてもらうことを心掛け、一次救命処置に少しでも興味を持ってもらえるよう活動を行った。保育施設の教員を対象とした場合、ほかの一般市民とは異なり蘇生行為を行う対象が小児である確率が高いと考えられたため、小児の心停止の原因の多くを占める窒息の解除や、溺水時の対応も交えて行った。内容があまりにも難しくなりすぎたり、退屈にならぬよう DVD などの解説を多く用い学生中心に普及活動を行った。

今年度の BLS 講習のあとにアンケート調査を実施したところ、受講者の満足度が高いという結果が得られ、講習内容と受講者の成長段階がしっかりと一致していることが確認できた。「自分でも人を助けることができる」という認識を子供たちが持てるようにすることは、きわめて重要なことであり、こういった「自己有用感」がさらなる学習意欲を生み、将来のバイスタンダー育成につながった。